

自分の教育実践を研究として成立させる方法について学ぶ会 実践発表プロット

『即応力』を育てるためのワークショップ形式授業における配慮点
～短時間で、まとめる・伝える・評価する活動の繰り返しを通して～

石川県野々市町立野々市小学校 正来 洋

1. 実践の概要

5年生で2学期に取り組んだ社会科「自動車工業」、総合「われら地球防衛隊」において、グループコラボレーション能力の育成をねらい、ワークショップを大幅に取り入れた取り組みを行った。

2. 問題意識

今年度担当している5年生は、3年「地域に残る昔調べ」4年「町の福祉施設」(福祉)と総合の経験値を積み上げてきている。調べたことをまとめて発表する力や姿勢はかなり高いレベルにある。

じっくり調べて事前準備(原稿)などがある「発表」は得意
特に「一人で」調べてまとめて伝えることは得意とする子が多い。
教師の指示や発問の意図を汲み取って応えようとする意欲が高い
自分の考えを短時間でまとめて伝える場面では、言いたいことがまとまらなかったり、どう
いったいいのかわからずに「固まる」姿がしばしば見られる。

グループで話し合っ、「まとめ」や「話し合いの経過」を説明させる場面などでは、話し
合いをどう進めたらよいかわからなかったり、友達の意見と自分の意見を絡めて話し合う
ことがうまくできなかつたりで、とまどう姿がしばしば見られる。

彼らの学びの姿については、上記のようにまとめられる。

そのような実態に対応して、

- 一定の状況や限られた時間のもとで
- 考えを「持つ」
- 考えを「伝え合う」
- グループで特定の話題について「話し合う」
- 相互に活動を評価し、次の活動への見通しを持つことができる。

以上の力をグループのコミュニケーションの中での的確に発揮する力を伸ばしたいと考えた。

本稿ではそれを「即応力」ととらえ、その高まりを目指して実践を行った。

3. 実践の方針

総合「環境」と社会科「自動車工業」等の学習を連携させる中で、一定の時間制限のもとグループで話し合い・まとめ・伝え・評価する活動の繰り返しを意図して、ワークショップ形式の授業を大幅に取り入れる。

ワークショップにおいては、次のような点に配慮する。

- 自分の思い・考えをメモしながら学習を進めるための付箋紙利用
- グループで考えを出し合い、整理する、集団思考のための付箋紙利用
- 全員が参加するための「突然指名」「他の人の取り組みを紹介しコメント」
- 「なるほど、へえ賞」など「相互評価」の繰り返し
- ワークショップの成果を次につなげるための自己評価ワークシート利用

4. ワークショップ実施の配慮点

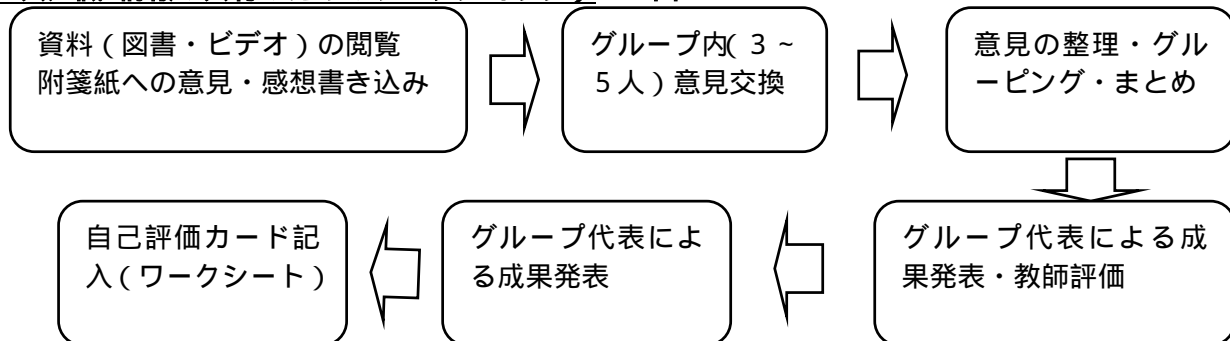
ワークショップのタイプ

10月6日から12月3日の約2ヶ月間に、総合・社会科で18回のワークショップ型授業を行った。

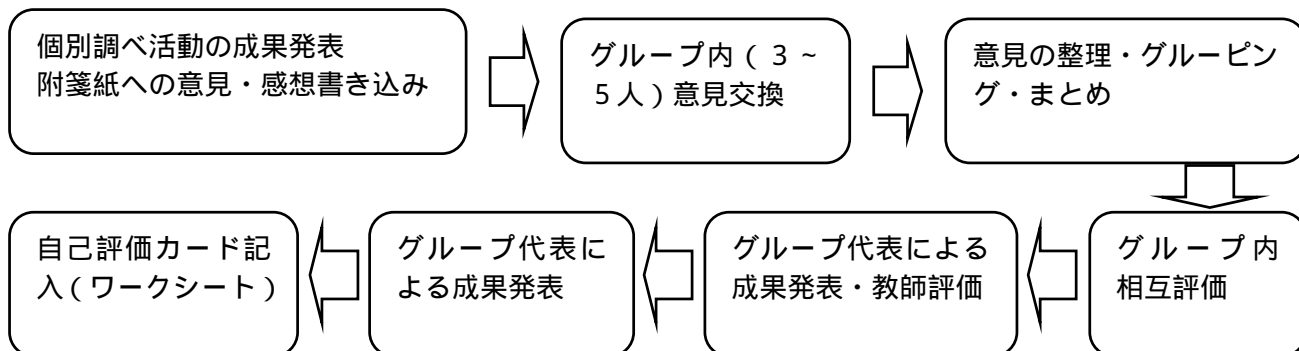
(経過は5. および資料を参照)

ワークショップのスタイルは以下のようなものである。

(A. 共知識/情報の共有のためのワークショップ) 7回



(B. 個別の調べ活動成果共有のためのワークショップ) 10回



(C. その他) 1回

ワークショップの際の教師の関わりに関する配慮点

受け身型の参加にならないために



- 個別に考えを持つための付箋紙の利用 (意見・感想・わかったことのメモ)
- 集団思考のための付箋紙の利用 (意見を出し合い, グルーピング&キーワード付与)
- ディスカッションの「仕切り」役は教師指名で。
- 班のディスカッション成果の報告は, 班長だけでなく, メンバーにさせる。
- 取り組み時間を明示し, 時間内に成果をまとめさせる。

成果の共有と内面化を図るために

- Bタイプのワークショップでは, 個人の活動成果に対して「なるほどへえ賞」「よく調べた努力賞」を相互評価で決定し, グループ成果発表のフェーズで紹介させる。
- 全員の全体発表が時間的にできないときには, クラスを二等分・三等分した中でのグループセッションを行い, 全員発表の機会を確保する。
- グループセッション終了後に自己評価ワークシートに振り返りを記入させる。

5. ワークショップ実施の概要

社会科「食料生産」「自動車工業」	総合「われら地球環境防衛隊」
<p>10.6 「食料生産」ビデオ教材からわかることについて意見交換</p> <p>10.7. 「食料生産」ビデオ教材からわかることについて意見交換,発表方法についての見直し</p> <p>10.21. 自動車工業 ビデオ教材視聴。組み立て工場の工夫について意見交換</p> <p>10.22. 自動車工業 ビデオ教材その2の視聴。組み立て工場の工夫について意見交換</p>	<p>9.2. 夏休み研究課題発表「環境問題」</p> 
<p>10.23. 自動車工業 リンク集「自動車と環境問題」を個別に閲覧し意見交換。</p>	
<p>10.24. 自動車工業 リンク集「自動車と環境問題」を個別に閲覧し意見交換,成果まとめ作業。</p>	<p>10.27. 自動車工業 リンク集「自動車と環境問題」を個別に閲覧し意見交換,クラスでの成果共有。</p>
<p>10.30. 自動車工業 ワークショップ 成果を踏まえた成果の確認授業。</p>	<p>11.12. 「環境防衛隊」導入。環境問題についての知識を共有・確認するためのグループ内ウェビング。環境問題の一端を理解するためのビデオ教材「南極の環境汚染」と意見交換ワークショップ。</p>
	

社会科「食料生産」「自動車工業」	総合「われら地球環境防衛隊」
	<p>11.14. ビデオ教材「空き缶リサイクル」の視聴と意見交換ワークショップ。 11.12 のグループウェビングの成果を踏まえて、クラス全体で環境問題の把握のためのウェビング。</p>
<p>セッション 1 (S 1)</p>	<p>11.17. 個別課題「身の回りの環境問題を探す」のグループ内発表・共有ワークショップ。グループ内評価「なるほど、へえ賞」「よく調べた努力賞」でグループ内相互評価。</p>
<p>セッション 2 (S 2)</p>	<p>11.19.-1 「江戸の暮らしに学びリサイクル・リユース」ビデオ視聴とワークショップ。グループ内評価「なるほど、へえ賞」「よく調べた努力賞」でグループ内相互評価。</p>
<p>セッション 3 (S 3)</p>	<p>11.19.-2 個別課題「身の回りの環境問題を探し、自分たちができることを提案する」グループ内発表・共有ワークショップ2。グループ内評価「なるほど、へえ賞」「よく調べた努力賞」でグループ内相互評価。</p>
<p>セッション 4 (S 4)</p>	<p>11.20. 個別課題追究「身の回りの環境問題を探す」の個人提案の調査作成中間報告ワークショップ。</p>
	<p>11.21. 「身の回りの環境問題を探す」の個人提案をおうちの人に評価してもらってどうだったかを共有するワークショップ。 課題ごとに子どもたちをグルーピング。グループでの提案作成に移行。</p>
	<p>11.27. 成果発表会。各グループの提案を聞き、ゲストコメンテーターからの評価を受ける。個別に提案の評価を行い、グループで相談してグループの提案に評価点を与えるディスカッション。</p>
<p>セッション 5 (S 5)</p>	<p>11.28. 成果発表会。同上。</p> <p>12.4. グループ発表の総括・自己評価セッション。</p>

4. の ・ で述べたような形のワークショップを行い、ワークショップの最後に自己評価カードを記入して活動を振り返った。ワークシートは以下のようなスタイルである。

自分の調べ・提案

良い所と足りない所

私は自分自身がこういうのになれてまたようなかまがほす。調べる力があつた。ようなかまがしるう。れし→^{あつて!}でも調べる力はいいんだけど、調べす^すて^すな^なか^かい^い文^文にな^なって^てし^しま^また^たか^から^らも^もう^うす^すし^しり^りゃ^ゃく^くして^てキ^キー^ーワ^ワー^ード^ドた^たり^りを^を書^書い^いて^てお^おと^とか^から^らま^まち^ちん^んと^とし^した^た文^文に^にし^した^たい^いと思^思い^いま^ます^す。キ^キー^ーワ^ワー^ード^ド第^第一^一!!

11月20日 名前

今日のセルフチェック!

調べる力	A
まとめて言う力	B
まとめて書く力	A
グループで協力する力	A

今日は、と^とり^りよ^よく^く賞^賞た^たった^た。ラ^ラッ^ッキ^キー^ー ^{あつて!}

上記ワークシートの右項「今日のセルフチェック」が自己評価項目である。

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| A (とてもよくできた) | B (よくできた) |
| C (もう少しがんばりたい) | D (もっとがんばりたい) |

- 調べる力 個人追究課題や、資料の読みとりが的確にできたか。
- まとめて言う力 グループ内やグループ代表として意見をわかりやすく言えたか。
- まとめて書く力 個人課題や資料読みとりで附箋メモ等が的確に書けたか。
- グループで協力する力 ワークショップの話し合いに積極的に参加し意見を述べたりまとめたりすることができたか。



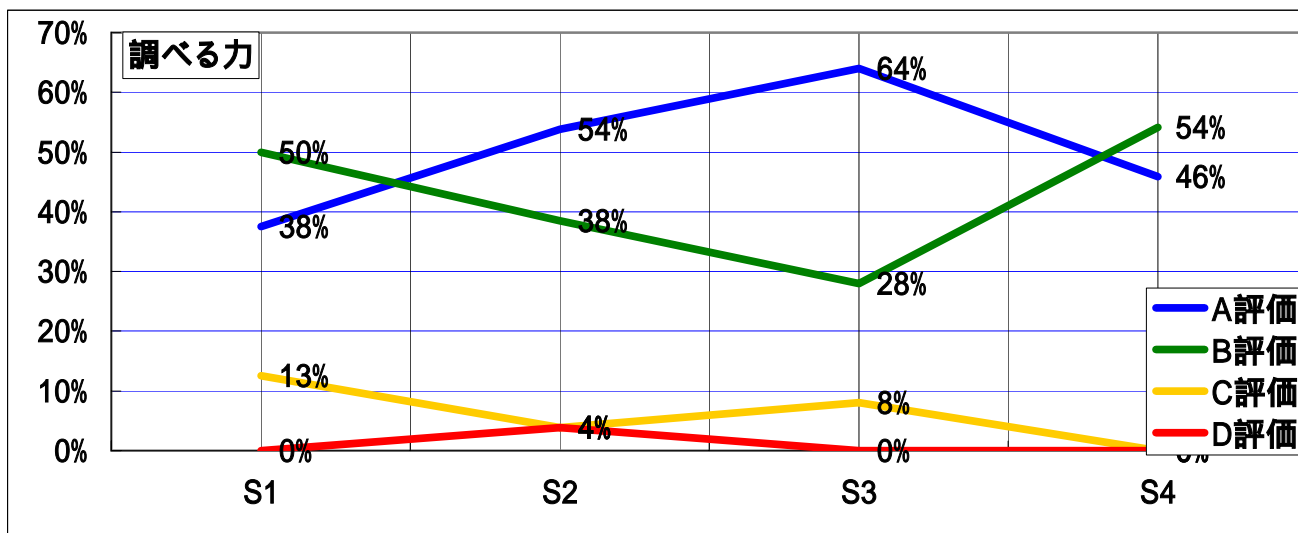
6. 考察

19回行ったワークショップのうち、実践の後半部分（# , , , ）を取り上げて考察する。これらを取り上げた理由は以下である。

- 総合「我ら地球環境防衛隊」のグループ追究場面の山場となった一連のワークショップであること
- ワorkshopを行ったグループの構成員が5回とも同一であること。

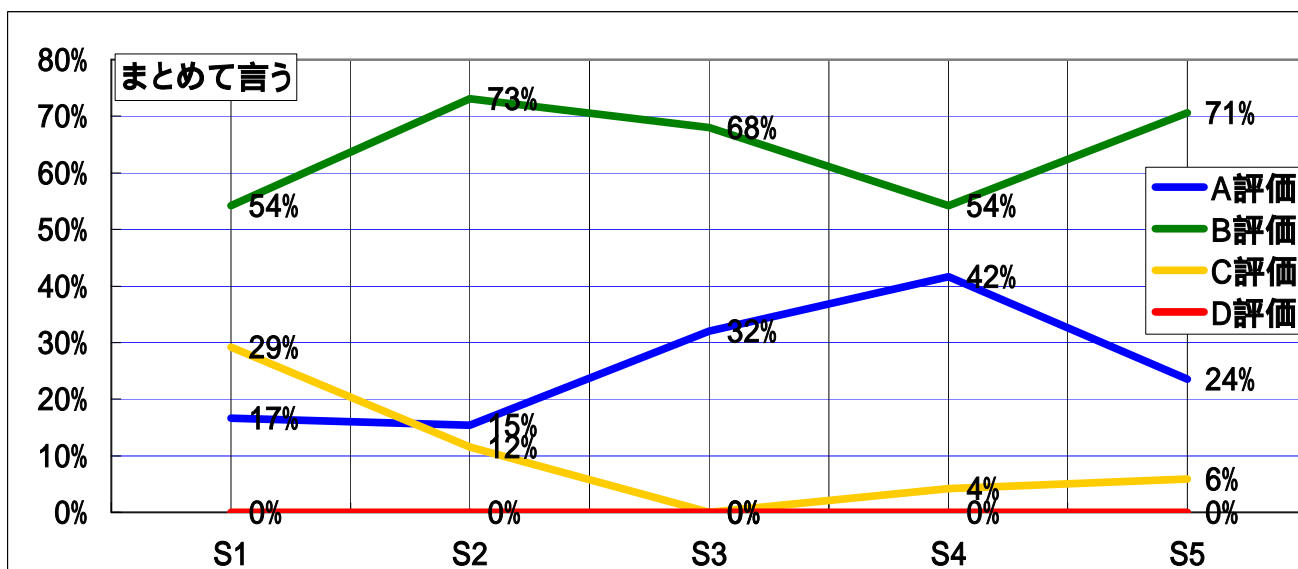
調べる力について

まず、「調べる力」（個人追究課題や、資料の読み取りが的確にできたか）に関する自己評価の推移を見てみる。



各セッションごとにそれほど大きな変化は見られない。肯定的評価（AとB）の合計は90%前後で推移している。ワークショップによるディスカッションの繰り返しが、個々の「調べる力」には直接結びつくわけではないと言える。

まとめて言う力について

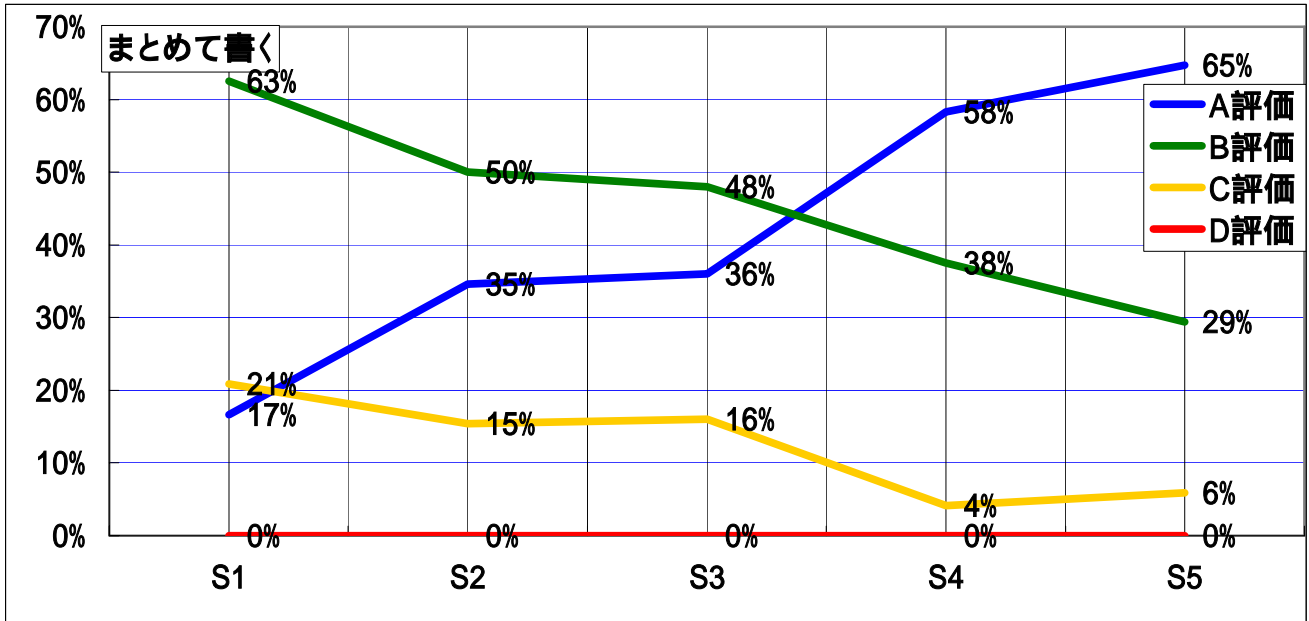


「調べる力」に同じく、肯定的評価（AとB）をする者は90%前後で推移しており、大きな変化はないと言える。ただし、セッション1（S1）からセッション4（S4）にかけて、A評価をつける者の割合は2倍以上に増加している。また同時に、否定的評価（CとD）をした者の割合はセッション1

(S 1) の約 3 割からセッション 4・5 (S 4 S 5) 1 割弱まで低くなっていく傾向がある。

総じて見れば、ワークショップの繰り返しの中で、考えや感想を「言わざるを得ない」状況に何回も追い込まれることにより、「まとめて言う」経験値が一定度高まり、自信をつけていっている様子がうかがえる。

まとめて書く力について

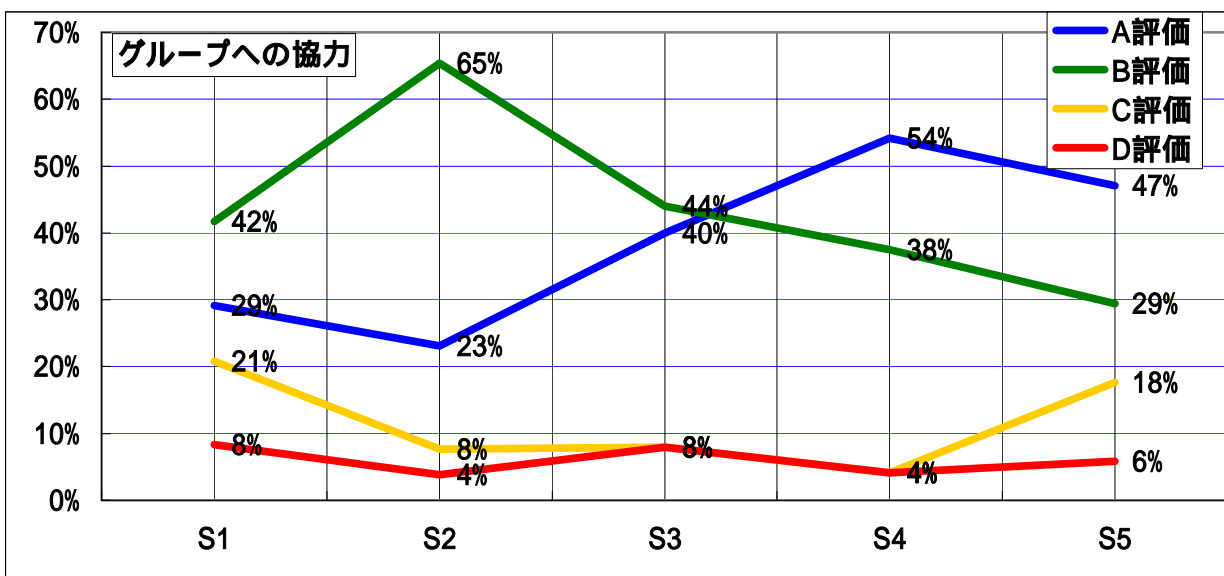


もっとも顕著な変化が見られるのがこの項目である。A評価の割合はセッション 1 (S 1) の 2 割弱からセッション 5 (S 5) の 6 割強まで 3 倍以上の増加を示している。同時に、否定的な評価 (C 評価) の割合も約 2 割から 1 割弱に一貫して減少する傾向が見られる。

グループ内ディスカッションや、代表者としての報告など、音声言語中心に進むワークショップの繰り返しではあるが、それを支えているのは「書く力」への自信の深まりであることが伺える。

仲間の発表や意見を聞き取りメモ書きすることや、グループの意見を分類しキーワードを付与するといった書く作業もワークショップでは非常に重要な要素である。短時間に「書く」「まとめる」「伝える」という作業を繰り返す経験が、子どもたちの「書くこと」への抵抗感を減じ、自信をつけさせていることがわかる。

グループで協力する力について



数値としてみると、肯定的評価、否定的評価ともに「書く力」の分析で見られたような著しい向上は見られない。

ただし、セッション2からセッション4にかけては、A評価をつけた割合が2～3割のレベルから5割前後へ伸びている。一方で、否定的な自己評価であるC評価・D評価の合計割合も、逆にセッション後半（S5）では逆に増加の傾向が見える。

このような自己評価の傾向が現れた原因はなんだろうか。考えられるのは、セッションの性質の違いである。

S1やS4のディスカッション内容が既存の資料の紹介・個別の取り組みの成果発表がテーマであった。従ってA評価の増加に見られるように、セッションごとに子どもたちは経験値を高め、自信をつけていると言える。

しかし、セッション5（S5）は、調べたことをもとにグループとしての「提案」（環境を良くするために自分たちができること）を振り返り、発表の総括することであった。提案を試行錯誤しつつ生み出し発表した後、相互評価とゲストコメンテータの厳しい評価を受けた後の内省を促すセッションであったため、そのことが自己評価の伸び悩みにつながっているとも考えられる。

しかしながら、教師の主観的評価を加えるならば、セッション1～セッション5へと子どもたちのワークショップでの活動はより積極的になっている姿が見られ、子どもたちの自己評価の伸び悩みとは逆の印象を持っている。

7. 結論

以上の実践結果から次のようなことが結論づけられる。

ワークショップ形式の授業を繰り返すは、子どもたちは「書く」「まとめる」「発言する」といった積極的な関与を「せざるを得ない」状況に置くことが可能になる。

付箋紙を使って、一定の時間制限のもとで、発表することを前提に「個別に考えやわかったことを書く」活動、あるいは「グループで意見を出し合い」「意見を分類し」「グループの成果を書いてまとめ」「発表する」活動を繰り返すことで、子どもたちの「書くこと」への抵抗感が薄まり自信を高めることができる。

グループ内でのディスカッション等に対する姿勢は、ディスカッションのテーマやアウトプットとして求められるものの質により左右され、必ずしも経験を重ねたからと言って単純に達成感が高まるとは言えない。

1. 単元名

われら地球環境防衛隊 ～私たちにできることは～ (仮)

2. 目標

身近な環境問題について調べ、環境を守るために自分ができることを調べて実践しようとする。

様々な方法で調べて環境問題とその対策のための実践について知る。

調べた事柄についてグループでディスカッションし、調べた事実、そこからわかったこと、感想を区別しながら、まとめる。

調べてまとめたことを、聞き手を意識して的確に伝え、互いに検討する。

3. 指導にあたって
(学習材について)

5年生の学習では、国語科や社会科の教材として多くの「環境」分野の学習が含まれている。

例	国語	「一秒が一年をこわす」「ホテルの住む水辺」(文明と地球環境)
	理科	「植物の発芽と成長」(植物の生育環境) 「動物の誕生」(メダカの生育環境),
	社会	「わたしたちの生活と食料生産」(米づくり, 環境への配慮) 「私たちの生活と工業生産」(自動車工業, 環境への配慮) 「私たちの国土と環境」(日本の自然環境, 自然保護の必要性)

これらの単元を互いに関連させながら、内容的な理解の深まり、関心意欲の喚起を図ることは重要である。

総合的な学習の時間においては、自らの生き方に結びつけて考えたり生かしたりすることが求められる。教科の学習において得た知識理解や技能を総合的な学習の時間において横断的、体験的、かつ実践的に取り上げることがそのためには不可欠と考える。

本単元では、これまでの「環境」に関わる教科等の学習を踏まえつつ、児童一人ひとりが「自分には地球環境のためになにができるか」という問題意識を持ちながら、身近な環境問題を発見し、それへの対処を考え、実践できるようにさせたい。

実践に至る過程においては

保護者などの身近な人から、図書資料から、インターネットからなど身近な情報手段から情報を集め、
それらの情報をグループで出し合い、身近で実現可能なものかどうか、それをすることにどのような意味があるのかを明らかにするための討議をしながらまとめ、
グループで発表して、どの提案がより説得力があり、実現可能なものかを評価し合い、
選んだ実践を実際に行って、環境問題の意味を知り、自らの生活の中で実践を行う時のメリットやデメリットを体感する

ことをねらう。

(児童について)

3年生時に郷土史に関わる「昔調べ」、4年生時に地域の福祉をテーマにした総合に取り組んだ学習歴を持つ児童である。

これまでの学習において、まとめ伝える経験は豊富である。学習成果を伝える相手として、地域の人、町の行政当局など様々な場面を経験している。また、メディアを使った学習として、テレビ会議システムとインターネット電子掲示板を使い、地域の伝統産業について三重県・福岡県・千葉県・愛知県などの子どもたちと交流学習を行った経験も持っている。

これらの学習において、まとめ伝える経験とスキルは一定以上のものを持っている児童たちである。その基盤の上により高い学びを積み上げるには、

自分の目的や意図を明らかにした発信，相手に応じた効果的な発信ができる力

筋道や論理を明確にして発信できる力

互いの意図や目的・思いを聞き取る力

計画的に相談し活動（コラボレーション）できる力

を意識させ、高める指導が重要であると考えた。

一学期には、個の力量形成に主眼を置いてきた。・ について教科指導に絡めながら「紙芝居プレゼン」で「事象と感想や意見」を区別しながら、キーワードや論理の流れに注意して効果的に伝える経験、「マイクロディベート」で「話し手の意図を考えながら話の内容を聞く」こと、「自分の立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと」をねらってきた。

同時にパソコンを扱う基礎的な操作能力の向上のために、キーボード入力、基本的なソフトウェアの扱い（ワープロ、グラフィック、インターネット等）の経験を積んでいる。

二学期においては をねらい、グループのコラボレーション能力の力量形成へと比重を移している。グループエンカウンター的な効果をねらっておはようタイムに「百人一首」を取り入れた。

同時に、社会科「自動車工業」を中心としてグループのワークショップ形式の授業を経験しながら、短時間で相談し、まとめ、伝える活動の経験を積んできている。

（テーマ「関わりながら、学び、伝え合う子」について）

本単元の活動における「つけたい力」は、国語科の目標と不可分である。総合的な学習の時間においても「聞く話す」「書く」にリンクしながら「関わり合い」「伝え合い」、「学ぶ」力を育成することをねらいたい。

国語科 目標（5/6年）

1. 目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどを的確に話すことや相手の意図をつかみながら聞くことができるようにするとともに、計画的に話し合おうとする態度を育てる。
2. 目的や意図に応じ、考えたことなどを筋道を立てて文章に書くことが出来るようにするとともに、効果的に表現しようとする態度を育てる。
3. 目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読むことが出来るようにすると共に、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。

よって、具体的には4の「評価」であげるような子どもの姿をめざす。

4. 評価

身近な環境問題について調べ、環境を守るため実践ができる。

グループ学習において、「環境問題とは何か」「環境保護のために身近にできること」について、調べたことや意見を互いに出し合い、計画的に話し合って成果をまとめることができる。

グループの提案発表を聞き合い、説得力のある内容であったかを互いに評価し合って、自分たちの学びの姿を振り返り、次に生かそうとする。

調べたことをまとめて伝えるプレゼン・ワークショップで事象・感想・意見を区別しながら、聞き手が納得してくれるように論理的に話すことができる。

5. 指導計画 (一年の見通し)

関連教科・単元の学習の流れ

<p>1学期</p> <p>社会 米づくり・水産業 国語 海に眠る未来 図工 自画像</p> <p>総合 ・お気に入りの県を紹介しよう(プレゼン) 国語「依頼状…」と</p>	<p>夏休み</p> <p>環境問題についての個人研究</p>	<p>2学期</p> <p>社会 工業 国語 子ども環境会議を開こう</p> <p>総合 我ら地球環境防衛隊</p>	<p>3学期</p> <p>地域の放送局番組出演を意識した発信体験</p>
--	--	---	--

<p>1学期 個のスキル(考え,まとめる) (発信) 紙芝居プレゼンテーション マイクロディベート (PC操作技術) 依頼状を書こう (タイピング・ワープロ, Web 検索) 自画像を描こう (グラフィックソフト)</p>	<p>2学期 グループのスキル (聞き合い,まとめる) ワークショップ形式 資料の読み取り 意見交換(ウェビング, KJ 法的手法) 発信(紙芝居プレゼンなどを生かして)</p>	<p>3学期 グループプレゼンテーション(外部への発信)</p>
--	--	---

スキルの育成

3. 学習活動の流れ

(1) 単元名 (本単元)

		ねらい	主な学習活動	教師の働きかけと評価
第一次	4	身近な環境問題を発見する	<ul style="list-style-type: none"> 環境問題について知っていることをカードに書き出し,グループでワークショップ(KJ 法的まとめ)を行う。 結果を発表しあい,ウェビングで整理して論点を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みの個人研究(環境問題)の成果物をもとに話し合わせる。 ビデオ資料等,子どもたちの知識の補完のために視聴させ,感想を交換させる。 <p>身近な環境問題について考え,問題意識を持つことができたか。</p>
第二次	4	身近な環境問題を解決するための実践方法(実践プラン)を調べる。(個別)	<ul style="list-style-type: none"> 裏付けを明らかにしながら,個別に環境問題とそれに対応するための実践方法を調べる。 (図書,新聞,ビデオ資料,Web, 専門家へのインタビュー等) 	<ul style="list-style-type: none"> グループ,クラスでのワークショップの論点を元に個人としての課題を持たせるよう,個別に助言する。 図書館司書にテーマに沿った図書資料の収集を依頼しておく。 <p>個人の課題を持てたか。 適当な資料を選び,課題に関連した情報を収集できたか。</p>

第三次	6	身近な環境問題を解決するための実践プランについてグループで意見交換し、提案としてまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークショップで個人の調査成果を発表しあい、共通点、相違点などを把握する。 ・ グループディスカッションで、グループとして提案する内容を決定し、紙芝居プレゼンテーションを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査内容と実践法を各自の提案の利点を明確にして伝えられるように助言する。 ・ 情報モラルの指導として、情報の出典を明らかにして発表するよう働きかける。 <p>自分の意見をグループ内で表出できたか。</p> <p>調査成果を聞き合い、自分の成果が適当なものか、見直すことができたか。</p> <p>事象、意見、感想の区別をしながら、グループの成果を紙芝居プレゼンにまとめることができたか。</p>
第四次(本時 2/2)	2	グループ同士で、実践プランを提案し合い、相互評価して実践することを決める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 紙芝居プレゼン形式で各班の提案を聞き合い、内容の良否をグループで検討する。 ・ 各班への評価点を決め、提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1学期の紙芝居プレゼンの経験を振り返らせ、調べたこと、わかったこと、感じたことの区別をつけて発表出来るように働きかける。 ・ ゲストティーチャーとして保護者を迎え、家庭の実践者としてのコメントおよび外部評価をもらう。 <p>事象、意見、感想の区別をしながら、グループとしての提案ができたか。</p> <p>良さや疑問点をとらえて、他のグループの評価ができたか。</p>
第五次	2	各自が学校・家庭で実践してみる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各自が選択した実践プランを家庭や学校で実践し、実践記録ワークシートに残す。 	<p>継続的に実践に取り組み、記録に残すことができたか。</p>
第六次	3	実践を振り返り、良かった点や問題点を話し合い、環境問題に対する理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実践の経過、やって良かった点、やってみて問題を感じた点について整理し、グループでワークショップ形式の討議をする。 ・ グループの成果を発表し合い、良かった点や問題点を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実践記録ワークシートをもとに、うまくいった点、うまくいかなかった点、配慮点などを具体的に話し合わせるようにする。 ・ グループとしての意見を紙芝居プレゼン形式で発表できるようにする ・ 実践の成果と課題について、事実・事象・意見の区別をつけてまとめられるように助言する。 <p>グループの成果と課題を事実・事象・意見の区別をつけてまとめ、発表することができたか。</p>
第七次	4	「私の環境白書」として調べ活動と実践を振り返り、まとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 紙芝居プレゼンをもとに、各自でプレゼンテーションソフトを使って成果をまとめる。 ・ 小グループでミニプレゼン発表会を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ プレゼンテーションソフトの扱いについて1時間程度取り上げ指導を行う。 <p>紙芝居プレゼンをもとに自分の考えを入れプレゼンテーションのスライドを作り発表することができたか。</p>

6. 本時の学習 (第四次 2 / 2時)

(1) ねらい

紙芝居プレゼン形式で各班の提案を聞き合い、実践すべき内容を評価・検討する。

(2) 評価

事象、意見、感想の区別をしながら、グループとしての提案ができたか。

良さや疑問点をとらえて、他のグループの評価と、自グループ発表の振り返りができたか。

(3) 求める授業の姿

グループの提案発表を聞き合い、説得力のある内容であったかを互いに評価し合うとともに、自分たちのグループの発表を振り返り、評価する。

(4) 本時の流れ

主な学習活動	T	教師の支援 と評価
<p>1. 課題を確認する</p> <p>各グループの提案を聞いて、審査をしましょう。</p> <p>相互評価のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ わかりやすい発表だったか? ・ 実現可能な提案か? ・ その実践をすることが、環境問題に対して効果があると納得できるか? 	2	<p>前時にすでに前半グループは発表と評価を終えている状態である。それを踏まえて、本時のめあてを再確認したい。</p> <p>相互評価のポイントを理解できたか。</p>
<p>2. 後半グループの提案発表を聞き合う相互評価する</p>	25	<p>発表時間を守るという相手意識を持つために、提案時間は出入り・質疑を含めて一グループ7分とし、計時を行う。</p> <p>評価用ワークシートに、各グループの発表の評価を個別に残させる。評価コメントは附箋に書き、該当グループに渡す。</p> <p>相互評価のポイントを明確にできるよう、家庭での実践者代表として保護者、環境問題の専門的立場から泉教諭に評価コメント・質問を出してもらおう。</p>
<p>3. グループで評価点の配分を話し合い、発表する</p> <p>各グループの提案に対して、評価とその理由をコメントしてください。</p>	10	<p>評価用ワークシートをもとに、評価のコメントとまとめ、評価点を配分させる。</p>
<p>4. 自グループの発表について振り返り、発表する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちの提案で良かったと評価されたところはどこだろう。それはなぜだろう。 ・ 自分たちの提案で良くなかったと評価されたところはどこだろう。それはなぜだろう。 	8	<p>評価のポイントに沿い、理由を明らかにして他のグループの評価をすることができたか。</p> <p>相互評価のコメント入り附箋を受け取り、グループ自己評価の参考とさせる。</p> <p>評価のポイントに沿い、自分のグループの評価をすることができたか。</p>